| トピックス |
| --- |
| 1. 播州日誌 |
| 2. 南国土佐を後にして　第 21 回 |

福留経営労務管理事務所
姫路龍馬会
社会保険労務士・行政書士
福　留　　章


# 龍　馬　通　信


No. 77
2024 年 5 月号


## 立夏～小満の候

南の緑風が
花の香りとともに
夏を運んでくる
「薫風（くんぷう）」

青空　新緑　爽やかな風
力強く　エネルギッシュな初夏へ
遅咲きの八重桜
サクラの後を追うように
道端や公園に
つつじの花が咲く
常緑（落葉）低木
赤　紫　白など色の種類も多い
群れて咲く　重なり合って咲くので
花垣や花の屏風にも見える
行楽のベストシーズン
インバウンドの波
オーバーツウリズムの声も
経済復興も大事だが
国民生活の安寧も大切

和歌山で獲れる　ケンケン鰹
まだまだ　マイナーな魚
小型でさっぱり
刺身がうまい
知人に頂いた　赤ワインを
きっかけに
晩酌が　ワインになった
フランス　チリ　イタリア　スペイン
国籍の混じる箱買いのワイン
価格も手ごろだ
門外漢の私には

## ワインを語る

本当のワインの美味しさは解らない
まず 10 本ほどの中から
気まぐれに 1 本を選ぶ
750 ミリリットルの瓶を撫ぜながら
解説を読む　正直理解の外
徐（おもむろ）に　コルク栓を抜く
たちまち芳醇な　香りが飛出してくる
（来ない重いものもある）
数年の眠りから覚めて　輝く一瞬
赤　深紅　紫　スミレ色など
その生産地の　風と風景を感じる
渋み　酸味　フルーティーな甘味　苦味
収穫から醸造　貯蔵　樽の中での熟成
それらが　混然一体となって　主張する
わがままな言い分も含めて
飲む者の　唇に　至福の時を運ぶ

薫りを押し殺すように　ゴクリと飲む
チビチビではない
彼らの主張に答えて　ゴクリと飲む
のどに流し込んだ後は　余韻を楽しむ
そして二口目も　ゴクリとやる
1 日 1 本をカラにしてしまう私に
家族はあきれ顔
ゴクリゴクリだから 1 本は軽い
但しくれぐれも
チエイサーを　忘れてはいけない
あきれ顔の家
人を横目に
今日も　世界
の味を楽しむ

# 播州日誌

## *ハルウララの生涯*

生涯記録　113 戦０勝 113 敗（2 着５回、３着４回）。連戦連敗の競走馬ハルウララは 1996.2.27。北海道信田牧場に生まれた。小柄で臆病。セリ市でも買い手がつかず、高知競馬ならと、調教師に預託。鞍をつけるのを嫌がり暴れたり駄々をこねたり。藤原健祐が担当厩務員となってから少し落ち着いた。連戦連敗中の 2003 年ごろから話題となり、組合とマスコミの提携もあって、全国的な人気、知名度を獲得。一躍話題の馬となる。「1 回ぐらい勝とうな」高知新聞。「リストラ時代の対抗馬―負け組の星」東京新聞。などともてはやされ、人気は急上昇。当たらないから交通安全のお守りに、リストラ防止にと単勝のはずれ馬券を目当てに購入する始末。ほとんど競馬を知らない人たちである。当時高知競馬は財政難から存亡の危機にあったが、売り上げ倍増でＶ字回復。CD、映画、TV の実況中継、各種グッズなど、あたりにあたりまくり社会現象とまで言われた。

勝つことがすべての競馬の世界で、敗け続ける馬がこれほどまでのブームになったの何故だろう。ハルウララという何ともほっこりとした名前、よく似合ったピンクの頭巾。何よりも必死で走る健気な姿に、多くのフアンは１勝することを願い、ほとんど勝ち目のない馬券を購入した。「こんな馬もいますよ」競馬場側の起死回生の思惑が功を奏してマスコミの寵児に躍り上がった。敗けても負けても挑戦を続け、走り続ける姿に、人々は自分の姿を映していたのかもしれない。

ハルウララの人気のピークは、2004 年３月 22 日の「黒船賞」の後のレース。中央競馬の名騎手武豊騎手が騎乗した時だった。競馬場は人で溢れ、史上初の入場制限が実施され た。多くの報道陣、関西のバラエティ番組で実況放送された。全国から詰めかけたフアン１万 3000 人。報道陣数百人。競馬場はかってないフィバー状態に。ハルウララはいつものように大歓声の中上位に着けていたが、途中で力尽き、たてがみを振り乱して必死で挽回を図るがずるずると後退。何とか１勝の願いもむなしく大歓声はため息に変わった。武豊は最初から決めていた、勝馬にしか与えられない「ウイニングラン」を決行フアンにこたえた。騎乗後の記者会見で「奇跡は起こらなかった。残念だが高知競馬場にこれだけのフアンを呼び、日本全国に狂騒曲をかき鳴らした彼女はまちがいなく「名馬」と呼んでいい」。名騎手を鞍上にハルウララは幸せであったろう。多くのフアンはその健闘を称えそして感動の涙を惜しまなかった。

その後次第にハルウララの人気は収束していった。それでも出走の日は一目見ようという人が押し掛けた。単勝馬券の売り上げはいつもトップであり、売り上げ NO1 であった。2005 年３月の引退が決まった直後から、舞台裏で変な動きがあり、新馬主と厩務員との間でいざこざが起きる。紆余曲折があったが、人間同士のしがらみが絡み合って、結局引退レースも引退式も何もない状態で、ハルウララは姿を消した。思惑と欲望とがフアンを無視して最悪の結果を現出した。

2003 年 27 歳になった彼女は千葉県御宿町のマーサーファームで余生を過ごしているという。一世を風靡した名馬「ハルウララ」の余生が安穏であることを、祈らずにはいられない。

２０２４．５．２２

## 第１１回　　社労士　　野口　亮　がゆく

### 障害者雇用納付金制度

労働新聞から多くの情報を得ている。ちょっと油断すると次の号が来てしまって、読破するのに間に合わない。今朝も新聞を読みながら、新年度の法改正あたりをメモしている。

顧問先からのメールが入る。障害者雇用納付金制度について、聞きたいことがあるので来て欲しいという依頼。昨年も申告しているので対象事業所に間違いない。対象要件は常用雇用労働者 100 人以上の事業所。

会議室で事務方の責任者、担当者と面談する。基礎的なことは理解されているので確認していく。常用雇用の要件だが誤解されている面もあるので再度説明する。週所定労働時間 20 時間以上であって、1 年を超えて雇用される者（見込みの者を含む）である。1 年超雇用は、期間の定めのない者や、契約期間が通年 1 年以上となる労働者を指します。一人とカウントするのは 30 時間以上の者で、20 時間以上 30 時間未満の場合は 0.5 人とカウントする。A 社の場合 30 時間以上が 85 名、短時間が 40 名で常用雇用者は 105 名となる。この 105 名に昨年度の法定雇用率をかけて必要障害者数を算出する。令和 5 年度の法定雇用率は 2.3%なので 2.4 人となる。

年間で見て雇用率を超えている場合 1 か月 1 人当たり 29.000 円の調整金が支給され､雇用率を下回る場合は、同じく 50.000 円の納付金が徴収される。

障害者雇用を金銭的に、インセンチブとペナルティーで解決するのは個人的に違和感があるが、この制度により障害者雇用が促進された現実は認めざるを得ない。A 社の場合重度の知的労働者１名（ｗカウント）と中度の知的労働者２名で合計４名。充分法定雇用率を満たしていることから、調整金の対象となる事を確認、訪問を終えた。

障害者の中でも身体障害者の雇用は高い水準にあります。知的障害者の雇用は着実に伸びていますが、精神障害者の雇用は世界と比較しても低い水準になっています。

障害者雇用のご相談は当事務所まで。

## ～南国土佐を後にして～

**第 21 回　「東京編」　　別離（わかれ）**

「コニカはコニカ　いいと思うよ」という CM が流行っていた。高校２年生の夏。同級生の TY さんに特別の感情を持った。漠然としてはいたが友人に「好きな子がいる」と告白した。いつの間にかクラス中のうわさになって、盛んに冷やかされるようになった。特に嫌われたようでもなく何日か経つうちに自然に言葉を交わすようになっていった。席の近かったことも幸いした。話し込んでしまって用務員さんに「早く帰るように」と注意されたことも。いつの間にか夕闇が迫っていた。電車通りまで歩いて、電車ではりまや橋へ。土佐電鉄のバスターミナルまで送っていくのが普通になった。時間の早い時は電車に乗らず、ずっと歩くことも。距離なんて関係なく、その距離の長さがうれしかった。満杯のバスの中から小さく手を振り、唇を動かして「さようなら、ありがとう」というのが通例になった。週に１度は合図をして高知城へ行った。なるべく人通りの少ない、人が来ないような場所を探した。山茶花の生け垣のところが二人のお気に入りだった。椅子もなくたったままで１時間は話をした。いくらでも言いたかったし聞きたかった。それだけで幸せだったし、それ以上の望みもなかった。明るいうちにということで、大体５時くらいにはバス停まで送った。彼女はバスで 30 分、歩いて 10 分くらいの小さな町に住んでいた。

ある時、山茶花のところで話をしているうち、うっかりと私がトゲに触れてしまい血がにじみ出た。大したことないよと言っている間に、彼女は人差し指を口に含んだ。そしてハンカチを押し当てて止血してくれた。彼女の衝撃的な動きに圧倒されている私に「家ではこうするの」と言って笑った。体の奥から湧き上がってくる感情の渦が、二人の心にしみこんで広がっていった。二人の距離が一気に近まったような気がした。別れは辛くすぐに会いたくなった。会うたびに感情が高まり、別れるたびに膨らんだ。

夏休みに手結（てい）の浜で暴漢に襲われたときは、身体を張って彼女を守った。帰り際の唇はいつもと違って「ありがとう　心から　愛しています」だった。修学旅行は九州だった。日南海岸をバスが快走する。歌の順番を指名するとき「あのう、福留君」彼女の指名にバス中が歓声を上げた。もう全校的に公認のようなもので、皆が二人を見守ってくれた。一部の教師を除いて。阿蘇山の外輪の内側にある菊川温泉（？）に泊まった夜。友人たちの計らいでそっと旅館を抜け出して、温泉街の喫茶店へ。二人手を取り合っての逃避行。お茶とサンドイッチ。周りからは驚異の目。何しろ浴衣姿の中に私服の二人は目を引いた。向かい合って何もしゃべらない、動かない。動くと大切な時間が終わってしまうような気がした。何もいらなかった。幸せだった。互いの呼吸が重なり合って一つに溶け込んでいくようなそんな時間だった。

高校２年の夏から大学３年の夏まで。後半３年間の東京と高知の遠距離交際は、段々と若い二人の心の隙間に亀裂を生じさせた。私はノー天気な大学生。彼女は現実の大人の社会人。年に２～３度の帰省。大体 10 日ほどの日程だった。デートの回数は初めの頃はそのうち５～６日、それが３日になり２日になり、最後の時は１日だった。何故あってくれないのかという私に彼女は寂しそうに、「明日仕事が忙しいから」と言った。彼女はもう社会の現実という荒波にもまれていた。彼女はそれで充分と言って笑った。別れの予感は恐れに変わりやがてその日が訪れた。はりまや橋で落ち合って喫茶店へ。彼女は始めから今日告白する積りでいたと思う。普段の様子ではなかった。真剣なまなざし。ついにその言葉が出た。「私もうあなたのことを待つことが出来ない」決定的な言葉だった。結婚を前提とした交際が始まっているらしい。未練たらしい私に最後の言葉「あなたはいつもそうだから、もう待つ自信がない」バス停での別れはいつもの通りだったが、永遠に彼女を失うことにもなった。

余り言い訳もできない。東京にはすでに交際している人がいたし誘えば付き合ってくれる人もいた。自分ばかりが勝手にいい加減な遊びに狂っていた。酒と女と。彼女との世界とは別の世界だった。

５年もの間、私を目一杯幸せにしてくれた人、あふれるような愛情で私を包んでくれた人、永遠に忘れられない人。遠ざかるバスの灯りを見送りながら、私は唇をかみしめ、涙をこらえるのが精一杯だった。酒を飲みそして酒を飲み、自分の愚かさを悔やんで泣いた。

## *年度更新と算定基礎届*

５月の連休が明けると年度更新と算定基礎届の季節。事業所の皆様には次の資料の提出をお願い致します。

年度更新　令和５年４月～令和６年３月までの総賃金を月別、雇用形態別（正社員、役員、パート、アルバイト）に集計したもの。月別の人数、賞与支給の有無も必要です。SR 関係は終了しています。

算定基礎届　令和６年４月５月６月（支払いベース）に支払った賃金の総額（控除前支給総額）及び昇給の有無、月額変更届の資料を提出して下さい。